

抗菌剤・駆虫薬は 使用基準を守り、正しく使いましょう

今般、県内で生産・出荷された肥育牛の腎臓から基準値以上の抗生物質(カナマイシン)が検出される事案が発生しましたが、生産農場の立入検査の結果、動物用医薬品の不適正な使用は確認されず、その後の筋肉での残留検査の結果からは、抗生物質は検出されませんでした。

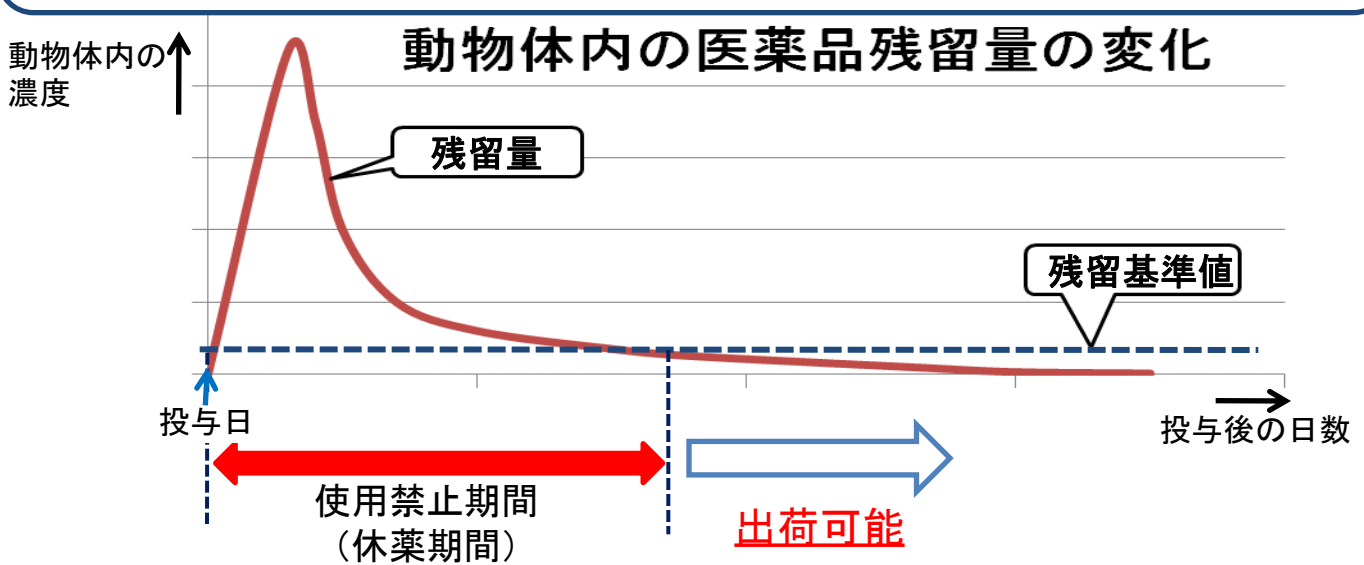
この事案を踏まえて、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」及び「動物用医薬品及び医薬品の使用の規制に関する省令」により定められた、用法・用量、休薬期間等の遵守及び使用記録簿等の適正な作成と保管の重要性が改めて確認されたところです。

そこで、これを契機に、改めて安全・安心な畜産物の生産を維持するため、動物用医薬品の適正使用を徹底するようお願いいたします。

抗菌剤、駆虫薬などは、使い方、使用量、使用禁止期間(休薬期間)などの**使用基準を守って使用**しなければいけません。

<使用基準を守らないと…>

出荷した乳・肉・卵・蜂蜜に医薬品が残留基準値を超えて残留した場合、**回収や廃棄の対象**となります。

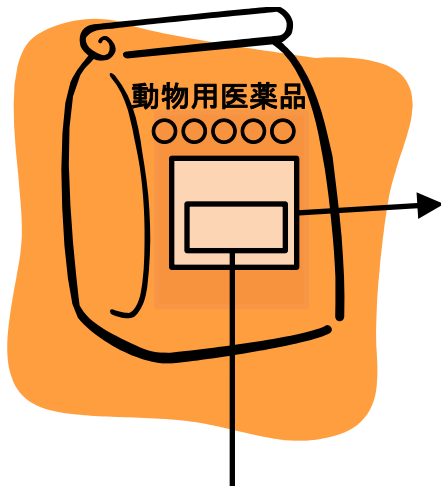


使用基準を守って使用すれば、食べても問題のない畜産物として出荷できます。

使用禁止期間や投与方法を守らなかった事例(損害は農家負担)

- 出荷前の豚に抗菌剤の入った子豚用飼料を誤って投与したため、豚肉にドキシサイクリンが残留(87頭分の枝肉等を回収)。
- 牛に抗菌剤を飼料添加で投与すべきところを飲水投与し、休薬期間を1日短く出荷したため牛肉にスルファモノメトキシンが残留(124kg回収)。
- 採卵鶏に使用できない抗菌剤を投与し、卵にトリメプリムが残留(自主回収も含め約101万個回収)。当該農家は廃業。
- 腐蛆病予防薬を専用飼料ではなく、自家調製飼料に添加したため、飼料が巣箱内に粘着。洗浄で除去できず、はちみつにミロサマイシンが残留(3t回収)。

使用基準の確認と使用の記録



<表示例>

動物用医薬品 ○○○○○(商品名)
効能・効果
牛の内部寄生虫及び外部寄生虫の駆除

用法・用量

飼料1t当たり0gを均一に混合し、0日間経口投与する。

注意—使用基準の定めるところにより使用すること

使用基準は、囲み枠に記載
(裏面に記載の場合もあり)

注意:本剤は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた医薬品ですので、使用対象動物(牛)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

牛(搾乳牛除く)

:食用に供するためにと殺する前0日間

対象動物

使用禁止期間(休薬期間)

- 医薬品を使用したら、使用記録を付けて保管しましょう。
①使用年月日、②使用場所、③対象動物、④薬品名、⑤用法・用量、⑥出荷可能日
医薬品の使用に問題がないことの証拠になります。
- 獣医師の発行した動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書がある場合は、使用記録と一緒に保管しましょう。

未承認動物用医薬品(個人製造や輸入)の使用は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律で禁止されています。また畜産物に残留した場合、回収・廃棄の対象となり、人で健康被害が発生した場合は、使用者の責任となります。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX 32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp